

「ネットワーク型コンパクトシティ」のまちづくりに関する地区別説明会について

◎ 趣旨

「ネットワーク型コンパクトシティ（以下「NCC」という。）」のまちづくりに関する地区別説明会の実施状況について報告するもの

1 地区別説明会の目的

NCC実現に向けた「拠点形成（立地適正化計画等）」や「公共交通ネットワークの充実（LRT整備，バスネットワークの再編等）」に関する取組等について，市民理解の促進を図るとともに，直接市民の意見を伺う機会とするため実施するもの

2 地区別説明会の概要

(1) 実施時期

平成29年9月中旬～11月下旬（各地区の日程・参加者数等については3ページ参照）

(2) 説明内容

① NCC実現に向けた取り組み

ア 拠点形成について

- ・拠点や居住地形成のイメージ
- ・「立地適正化計画」について
居住誘導区域と居住誘導策の考え方 など
- ・「市街化調整区域の整備及び保全の方針」について
開発許可基準等の見直し など

イ 公共交通ネットワークの構築について

- ・公共交通構築の考え方（LRT，バス，地域内交通の連携）
- ・バスネットワーク再編の考え方 など

② 各地区の現状・取組イメージ（土地利用・公共交通），将来像

(3) 実施状況

- ・市内の全39連合自治会単位で実施
- ・参加者数：1,001名（25.7名／1地区平均）
- ・男女別割合は男性80%，女性20%，年代別割合は60代以上が82%

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0%	1%	2%	4%	11%	32%	44%	6%

3 地区別説明会に関する総括

- ・ 今回の地区別説明会については，自治会連合会等と調整を行いながら，連合自治会単位の身近な場所で実施したことにより，前回（約400人）と比較し多くの市民に参加をいただいた。
- ・ 説明内容について，本市全体のNCCの考え方や取組に加えて，各地域に即した現状や取組イメージを説明としたことにより，将来を見据えたまちづくりの必要性や早急に進めてほしいとの意見を多くいただくなど，市民理解の促進が図られている。
- ・ 引き続き，地区別説明会や出前講座などの様々な機会を通して，各地域における将来の土地利用や住まい方の分かりやすいイメージなどについて，丁寧な説明を行い，市民理解の促進と意見聴取を行いながら，NCC具体化に向けた取組を進めていく。

4 主な意見

(1) 土地利用

- ・居住や都市機能の誘導のため、具体的な誘導策の充実が必要ではないか。
- ・地元の小学校統廃合が心配されるところであり、今後も地域のコミュニティを維持していく上で、地区計画制度を活用することにより定住を促すような取り組みを行うため、行政と地元が協力して進められるとよい。
- ・居住集約は今後、必ず求められるので早く進めるべきである。
- ・時間がかかる計画だからこそ具体性などを検討しつつ、着実に進めてほしい。
- ・将来を見据えて、若い人に聞いてもらったほうが良い。

(2) 公共交通

- ・バス再編により、市中心部などへのアクセスがしやすくなるのはありがたい。
- ・運行ルートや利便性など、子どもや高齢者が利用しやすい公共交通にしてほしい。
- ・中心市街地だけではなく、地域拠点へのアクセスについても考えてほしい。
- ・隣接駅との連携や周辺施設へのアクセスなど生活利便性向上に向けた公共交通ネットワークの構築を進めてもらいたい。

【参考】地区別説明会の実施状況

地区名	日時	場所	参加者数
西原	9月16日(土) 13:30～	西原コミセン	49名
御幸	9月19日(火) 18:30～	御幸コミセン	22名
緑が丘	9月19日(火) 18:30～	緑が丘コミセン	47名
築瀬	9月21日(木) 18:30～	築瀬コミセン	10名
今泉	9月25日(月) 18:30～	今泉コミセン	24名
石井	9月26日(火) 10:00～	石井コミセン	16名
篠井	9月27日(水) 18:30～	篠井地区セン	27名
昭和	9月28日(木) 18:30～	昭和小学校	13名
上河内	9月28日(木) 19:00～	上河内地区セン	22名
御幸ヶ原	9月29日(金) 19:00～	御幸が原コミセン	23名
桜	9月30日(土) 14:00～	桜コミセン	17名
宮の原	9月30日(土) 14:00～	宮の原コミセン	21名
城山	10月2日(月) 18:30～	城山地区セン	25名
明保	10月3日(火) 11:00～	明保コミセン	33名
富屋	10月3日(火) 18:30～	富屋地区セン	17名
横川	10月5日(木) 18:30～	横川地区セン	38名
五代若松原	10月6日(金) 19:00～	西原北公民館	41名
豊郷	10月6日(金) 18:00～	豊郷地区セン	18名
峰	10月7日(土) 13:30～	峰コミセン	12名
瑞穂野	10月11日(水) 18:30～	瑞穂野地区セン	39名
雀宮	10月12日(木) 18:30～	雀宮地区セン	26名
国本	10月13日(金) 18:30～	国本地区セン	49名
西	10月14日(土) 10:00～	西コミセン	10名
宝木	10月14日(土) 10:00～	宝木コミセン	33名
陽光	10月14日(土) 14:00～	陽光コミセン	12名
河内	10月14日(土) 14:00～	河内地区セン	18名
平石	10月14日(土) 18:00～	平石地区セン	33名
姿川	10月16日(月) 19:00～	姿川地区セン	14名
中央	10月17日(火) 18:30～	中央活セン	10名
清原	10月19日(木) 18:30～	清原地区セン	59名
富士見	10月21日(土) 10:00～	富士見コミセン	11名
陽東	10月24日(火) 18:30～	陽東コミセン	19名
錦	10月24日(火) 18:30～	錦コミセン	16名
東	10月26日(木) 19:00～	東コミセン	46名
城東	10月28日(土) 10:30～	城東コミセン	27名
陽南	11月6日(月) 19:00～	陽南コミセン	33名
泉が丘	11月14日(火) 18:30～	泉が丘コミセン	2名
細谷	11月17日(金) 19:00～	細谷コミセン	45名
戸祭	11月25日(土) 11:00～	戸祭コミセン	24名
合計			1,001名

雀宮地区説明会 次 第

日時：平成29年10月12日（木）

午後6時30分から

場所：雀宮地区市民センター

1 開 会

2 あいさつ

3 説 明

宇都宮市が目指す将来の姿

『ネットワーク型コンパクトシティ』のまちづくりについて

4 質疑応答

5 閉 会

〔配布資料〕

資 料 宇都宮市が目指す将来の姿
『ネットワーク型コンパクトシティ』のまちづくりについて

参考資料 地区の現状（土地利用・公共交通）
地区における将来の取組イメージ
地区の将来像

【お問い合わせ】

市街地整備課 632-2588

都市計画課 632-2642

交通政策課 632-2160

LRT整備室 632-2305

宇都宮市が目指す将来の姿

雀宮地区

ネットワーク型コンパクトシティ

のまちづくりについて

Network

Compact

City

平成29年10月12日（木）

宇都宮市 総合政策部 交通政策課
建設部 LRT整備室
都市整備部 都市計画課
市街地整備課

<内 容>

- 1 説明会の概要について
- 2 ネットワーク型コンパクトシティを目指す背景・考え方
- 3 ネットワーク型コンパクトシティ実現に向けた取組
- 4 雀宮地区における取組
- 5 雀宮地区の将来像
- 6 今後の進め方

1 説明会の概要について

1 説明会の概要

地域の皆様のご意見を伺いながら、**段階的に計画策定**などを進めています。

第1回（平成28年8月～10月）

- ネットワーク型コンパクトシティ
 - ・拠点形成の取組
「立地適正化計画」「市街化調整区域の整備及び保全の方針」
 - ・公共交通ネットワーク形成の取組
LRTの整備など

第2回（平成29年1月）

- 拠点形成の取組
生活利便施設（店舗等）を誘導する区域など
- 公共交通ネットワーク形成の取組
LRTの整備や地域内交通の取組など

平成29年3月 立地適正化計画策定（都市機能誘導区域など）
市街化調整区域の整備及び保全の方針（以下、「保全の方針」）素案公表

第3回（平成29年9月～11月）

- お住まいの地区における取組
 - ・生活利便機能の誘導、居住の誘導
 - ・バス再編イメージ など

第4回（平成30年予定）

- ※第3回における意見を踏まえた計画素案（居住誘導等）や取組状況 など

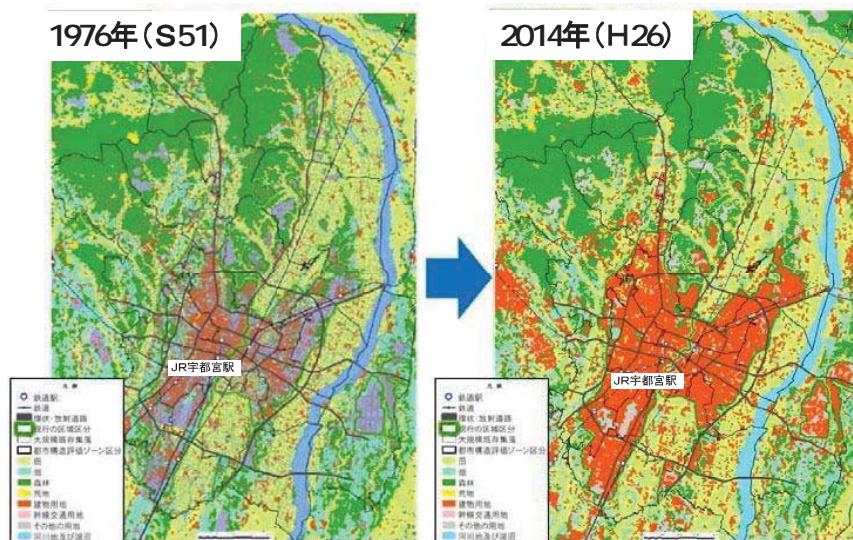
※バス再編については、引き続き意見交換を実施しながら再編案を作成

保全の方針改定

立地適正化計画策定
（居住誘導区域など）

2 ネットワーク型コンパクトシティを目指す背景・考え方

2-(1) 市街地の拡大

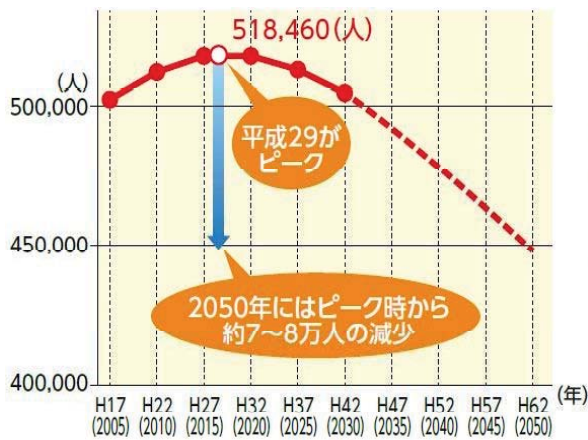


	1976年	⇒	2014年
宅地面積	4,484ha	⇒	11,453ha (約2.6倍)
農地面積	18,710ha	⇒	14,929ha (約2割減)
森林面積	12,205ha	⇒	9,865ha (約2割減)
人口	約37万人	⇒	約52万人 (約1.4倍)

※ 郊外部まで市街地が広がり、生活に身近な施設が拡散

2-(2) 人口の状況

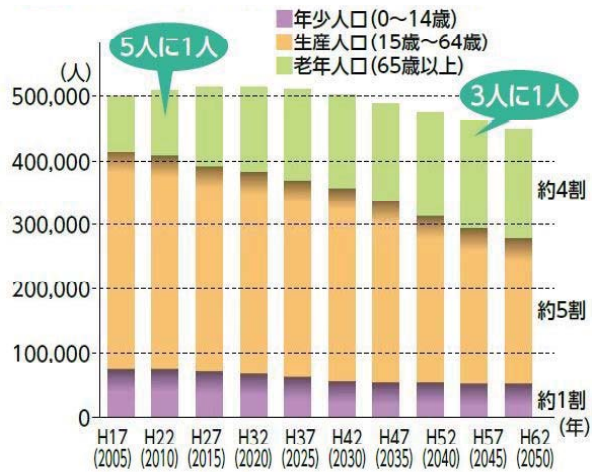
◆総人口の推移



人口は、平成29年頃にピークを迎え、減少に転じます

2016年:約52万人→2050年:約45万人

◆年齢別人口の推移



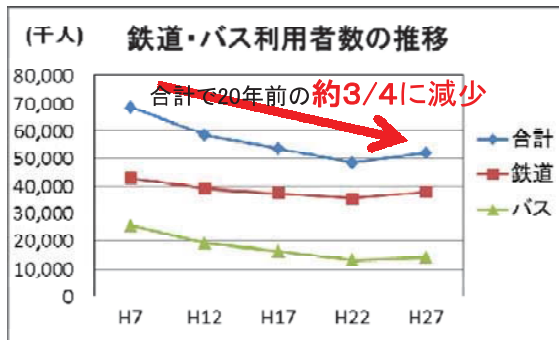
高齢者の割合が高まる一方で、子どもや現役世代の割合は低下します。

高齢化率
2016年:23.3%→2050年:36.8%

⇒ 人口減少・超高齢社会では生活利便性などの低下につながる心配

2-(3) 公共交通の利用状況等

◆公共交通の利用者数の減少

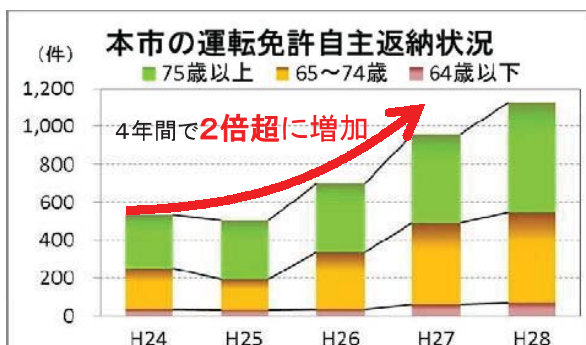
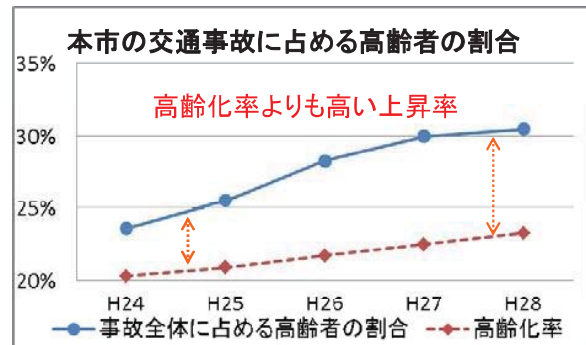


公共交通利用者の減少により、サービスレベルの低下が懸念

本格的な超高齢社会の到来により

高齢者の交通事故の増加や
自ら運転できなくなった高齢者の
外出の困難化が懸念

◆高齢者の交通事故等の状況



このまま人口減少・少子高齢化が進むと…

◆このまま何もしない場合の30～50年後のまちの姿(イメージ)

- 身近なところに病院や買い物をする場所が無くなってしまわないか？
- 車を運転できない人は、バスなどの運行本数が減り、不便になってしまうのか？
- 車に頼らないと生活できないので高齢者の交通事故が増えてしまうのか？



2-(4) ネットワーク型コンパクトシティの目指す背景

少子・超高齢化，人口減少社会においても
子どもや孫など次の世代も幸せに暮らせ，みんなに選ばれる
**将来にわたって持続的に発展できるまちを
実現するため…**

・まちの形を，長い時間をかけて，少しずつ暮らしやすい形に変えていくことが必要

・むやみに市街地を広げずに，中心部や身近な地域の拠点の働きや魅力を高め，公共交通を使いながら，行き来しやすいまちの「つくり」に変えていくことが必要

⇒その望ましい姿が『**ネットワーク型コンパクトシティ**』

21世紀の半ば(2050年)を見通した長期的なまちづくりの構想

2-(5) ネットワーク型コンパクトシティの考え方

1 多極型の都市構造

- これまでの都市の成り立ちなどを踏まえ、中心市街地に加えて、旧町村の中心部などに身近な地域拠点を設け、**拠点内に生活に便利な施設を誘導・集積**

2 公共交通ネットワークの構築

- 拠点間を結ぶ公共交通と地域を面的にカバーする公共交通を整備**することで、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークを構築し、それぞれの拠点を連携・補完

3 誘導による居住の集約

- ライフスタイルに合わせて多様な暮らし方を選択できるまち
- 便利で住みやすい場所には、時間をかけながら、**特に次の世代に対して、居住選択に応じ、緩やかに居住を誘導**

2-(6) ネットワーク型コンパクトシティの考え方

◆ 将来の都市の姿のイメージ

- 市内の**各地域に拠点を定め**、各拠点を**交通ネットワーク**で結ぶ
- 市街地部と郊外部にある、**各拠点が持つ特性がバランスよく調和したまち**

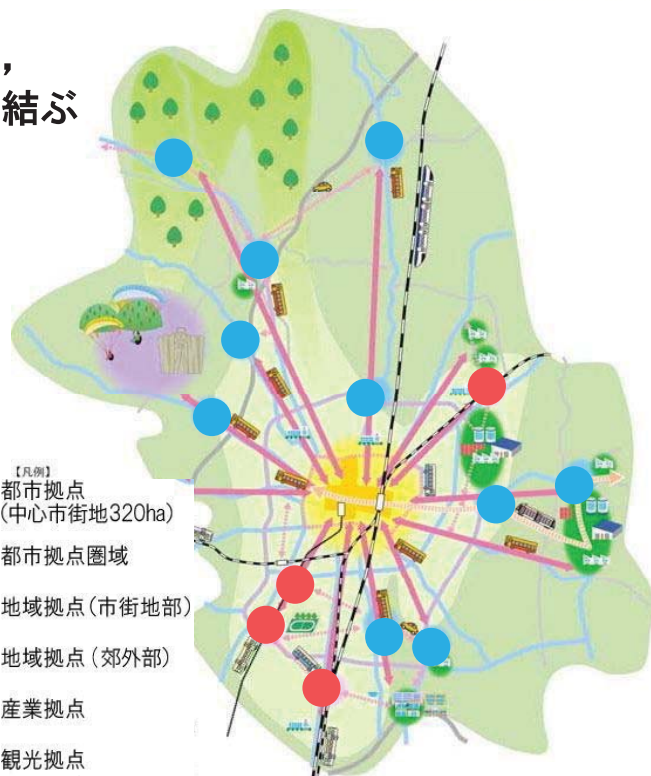
【凡例】

[交通ネットワーク]

- 基幹公共交通(鉄道)
- 基幹公共交通(LRT)
- 幹線公共交通(路線バス)
- 幹線公共交通・地域内交通
- 高規格道路(高速道路)
- 道路ネットワーク
(3環状12放射道路など)

[拠点]

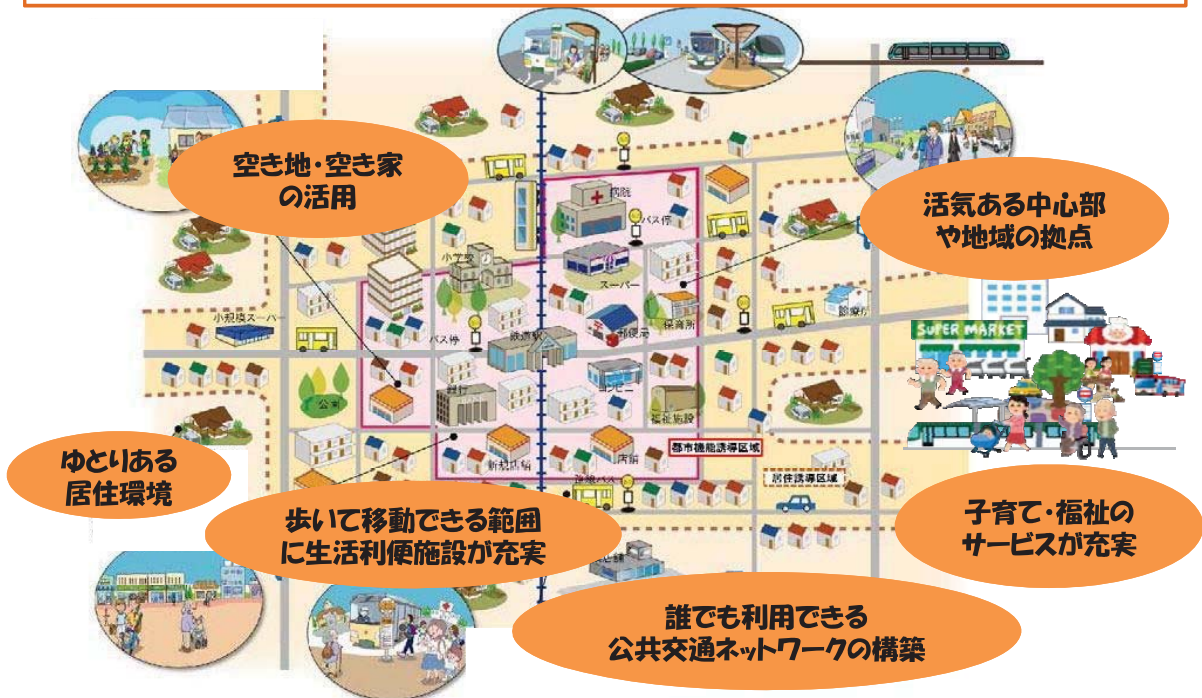
- 都市拠点
(中心市街地320ha)
- 都市拠点圏域
- 地域拠点(市街地部)
- 地域拠点(郊外部)
- 産業拠点
- 観光拠点



目指す将来のまちの姿

◆人口減少社会を見据え、考えを持ってまちづくりを進めていけば...

○ 便利な公共交通で結ばれた身近な拠点などに、日常生活に必要なスーパーや病院、子育て、介護施設等が充実 ⇒ 便利で暮らしやすく、将来にわたり持続可能なまちを実現



ネットワーク型コンパクトシティと福祉の連携

地域包括ケアシステム(医療・介護の連携等)のイメージ

高齢者が住み慣れた地域で、必要な医療・介護サービス等を利用し自立した生活を送ることができる社会を実現するため、医療・介護の確保を進めるとともに、公共交通で病院等にアクセスできる体制を整備

